

建国記念日

日本の建国記念日は紀元節と云う。紀元とは年を数える際の基準であるが、その呼称を「元号」と云う。和暦の名称である「元号」は、多くは天皇が代わると云う事象によって改元（名称変更）をされたが、過去には疫病流行などの、凶事の事象を断ち切るという事でも改元された。日本では建国の事象を紀元の始まり（基準日）とした。

では、日本の建国は何時であったのかということであるが、日本書紀に記された神武天皇の即位日を建国時点としたのである。

初代の天皇が神武天皇であるという決め事は、実際の天皇が神武天皇よりも先史に存在すると云うこととは関係が無い。

その日本書紀では、辛酉年春正月庚辰朔に、大和国の橿原宮かしはらのみやで神日本磐余彦が神武天皇として即位宣言をした意が記されている。現在の奈良県橿原市 橿原神宮の地である。

この事を祝うために古来、神社や仏寺では大祭が行われてきた。キリスト教は日本に根付かなかったので、この大祭は無い。

この日を明治革命政府は「紀元節」として明治六年（1873年）に制定した。明治時代以降は、四方拝（元旦）、天長節（天皇誕生

日）、明治節（明治天皇誕生日）そして紀元節が四大節として国の祝日であった。

前述の通り、元号、改元、初代天皇の即位との関係性について述べたが、建国記念日とは何かという定義は、万国共通ではない。日本では明治政府が「紀元節」を、グレゴリオ歴を基準とした太陽暦に換算（比定）した紀元前660年二月十一日を建国記念日としてきた。

英国では、そもそも建国の日が不明だから、建国記念日は無い。東洋の各国では、日本が大東亜戦争の敗北（1945年）に因って、当時の宗主国が植民地政策を復活させるのを阻止する為に、独立宣言をした日とする国が多い。

次に多いのはスペインからの独立を宣したアルゼンチン（1816年）、グアテマラ（1821年）、エクアドル（1821年）などであり、独立記念日が建国記念日に相当する。

もう少し古いのが米国であり、1776年七月四日に英国からの独立宣言書に署名した日が独立記念日（建国記念日）である。

昨日、岸田総理は「建国記念の日は、国民一人一人が、遠く我が国の成り立ちをしのび、今日に至るまでの先人の努力に思いをはせ、さらなる国の発展を願う国民の祝日です。」とのメッセージを出した。先人の努力には、昭和二十三年（1948年）に紀元節が米国占領下で廃止され、昭和四十一年に



建国記念日ではなく「建国記念の日」として復活した政治決着も含まれている。「遠く我が国の成り立ち」は皇紀以前も、日本国に継続する大和、倭国、あるいは欠史七代と云われる皇統の歴史や富士王朝などの三万年以上の先史があることを、先ず国民は知ることである。それが国を愛する心を養うことであろう。

国を愛するとは、国を護ることもある。国民が自分達の国を護らねば「国」は滅びる。そして自国を護れなかった国民が構成する民族は滅びる。民族が滅びれば民族を指導していた神々も滅びる。

令和四年二月十一日、建国記念日に記す

大中臣正比呂

